

チーム「沖縄発グローバルファンド」

聖火ランナー



JOY

タレント、
ストップ結核
パートナーシップ
ボランティア大使
(日本)

2011年に結核と診断され闘病。
ストップ結核パートナーシップボラン
ティア大使として結核の啓発に尽力。



唐真 盛充

八重山戦争マラリア
遺族会事務局長
(日本)

「八重山戦争マラリア」により兄を亡
くし母も闘病。戦争マラリアの実相を
後世に伝え恒久平和の実現を訴える
活動に従事。



石山 紀行

日本国際交流センター/
グローバルファンド日本委員会
デジタル・出版制作オフィサー
(日本)

健康診断で結核と診断され、9か月間の
治療を経験。「沖縄発グローバルファン
ド」チーム・ロゴのデザイナー。

国際応援チーム



ピーター・サンズ

世界エイズ・結核・マラリア
対策基金
(グローバルファンド)
事務局長

世界の三大感染症—エイズ・結核・マ
ラリア—の流行終息のため、150か国
以上に年間40億ドルを支援する国際機
関「グローバルファンド」の事務局長。



自身とお子さんがHIVと共
に生きてきた経験から、世
界中のHIV陽性の女性、結
核を患う女性の健康と人権
を守る活動家。

モーリーン・ムレンガ

リーン・オン・ミー財団事務局長
(ケニア)



HIVと共に生き、結核も
闘病した経験をもとに、
感染症で苦しむ人々の能
力向上とリーダーシップ
育成に貢献。

ジェフリー・アカバ

APCASO
プログラム・オフィサー
(フィリピン)



医学生の際、多剤耐性結核を
経験。さらに昨年、医療の最
前線で働く中、コロナに感染。
自身の経験を活かし結核のア
ドボカシーや医療従事者の環
境改善に声を上げている。

ゾレーワ・シフンバ

医師
(南アフリカ)



辺境地帯の人々にマラリア予
防や診断のサービスを届ける、
ミャンマーカレン族出身のコ
ミュニティ・ワーカー。

ソー・ウィン・タウン

マラリア・コミュニティ・ワーカー
(ミャンマー)